

A - STEPハイリスク挑戦タイプ(復興促進型)平成27年度終了課題 事後評価結果【仙台事務所】1課題

タイプ	課題の名称	上段:企業名 下段:研究機関名、 研究責任者名	研究開発の目的	研究開発の概要 成果	研究開発の概要 今後の展開	総合所見
	東日本大震災被災地における地域分散型養蚕による雇用の創出と地域再生	株式会社シルク総合開発 宮城大学 一田(高濱)昌利	本プロジェクトは、「地域文化」となっている「養蚕」に着目して、雇創出し最終的に「地域再生」を図るものである。対象とする地域には地域資源として「桑園」と「養蚕技術」が存在する。養蚕業は現在斜陽化の道を歩んでいて、桑園は放棄され荒廃し(桑木は根が張り、転作が困難)、かつて日本の主要輸出産業を支え隆盛を極めた製糸工場は次々と閉鎖の憂き目にあっている。本プロジェクトは、大学における養蚕に関する最新の研究成果を被災地に適用し、高付加価値「新養蚕業」を興し高齢化の進む地域再生を図るものである。	東日本大震災の被災地である南三陸町において、最新の技術イノベーションに基づき、大規模製糸工場に依存しない、高付加価値を有する地域分散型養蚕業の創出を試みた。 本プロジェクトは、蚕種製造のスケールアップ、簡易半自動操糸機の開発、周年で低コストの養蚕を可能とする桑葉の安定貯蔵法の確率を目的とした。新養蚕業のすそ野は広く、食品、飼料、畜産品、生糸、絹織物を高付加価値地域ブランド品として育成する。中長期的にはその成果を少子高齢化の進む他地域に波及し、地域再生と持続社会の基盤となる雇創出を図る。  成果 研究の結果、小石丸(巨理)の繭は、工業化レベルである60万頭飼育の目処が立ち、繰糸条件を調整して良質な生糸を得る事ができた。桑葉は、配合飼料で鶏への給餌試験を実施し、主要成分の分析を行っている。また、桑葉を含有するジャムやプリンを試作して、新たな食味を創出した。	本研究の成果展開により、被災地南三陸町の復興が大きく進展することが期待できる。また、小石丸(巨理)の生み出す生糸は宮城県産ブランドとして、大きな経済的・社会的価値を生み出すことが期待される。また、桑葉はフラボノイドやアザ糖など健康増進成分を含有しており、開発した新食品は、地域住民の健康に役立つほか、新たな味覚に基づく6次産業を興す材料となる。さらに、家畜の新規な飼料を提供することによって、特色ある食肉を提供することが期待できる。	申請計画がほとんど進んでおらず、目標達成率の低さが非常に残念である。派生分野に力が入っている感があり、主目的である小石丸を使った絹糸の生産技術および応用開発について未達部分が多く、今後の開発計画の再検討が必要である。当初の目標であるブランド品の小石丸を活用した地域再生、雇創出へ向けてさらに努力されたい。